



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会長

細谷 俊夫

幹事 伴

誠

会報・雑誌委員長

床井 光雄

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3066号 2024年10月22日(曇り) 第16回例会 会員数99名

ハイブリッド例会



点 鐘 細谷会長

司 会 副SAA 谷田部(勝) 会員

◇ロータリーソング「それでこそロータリー」

◇本日のランチ 和定食



安全なワクチンで予防が可能です。ロータリーとそのパートナー団体は、これまで世界中で25億人の子供にワクチンを投与する活動を行ってきました。これからもポリオ撲滅のために、今まで以上の活動を続けていきます。今度の日曜日には、市内の10クラブ共同で、ポリオ撲滅キャンペーンとして募金活動を行います。東クラブは、東武デパートの北側、オリオン通り入り口で、午前中活動していますので是非、皆様、選挙の帰りにでも募金しに来てください。お願いします。



ビジター紹介

片嶋副会長

◇卓話者 フリーアナウンサー 藤田 真奈 様



会長挨拶

細谷会長

皆さん、こんにちは。今日10月22日は、国際吃音啓発の日です。国際吃音者連盟と国際流暢性学会が、1998年に制定した国際デーのひとつです。吃音(どもり)や言語障害に対する理解を促進し、意識を高める事を目的としています。私事ですが、幼少の頃、吃音で苦労した記憶がありますので、他人事とは思えない記念日だなと思いました。今日の卓話は、フリーアナウンサーの藤田真奈様です。藤田様には無縁な記念日かと思いません。

また、今週の木曜日24日は、世界ポリオデーです。ポリオ(急性灰白髄炎)は、非常に感染性の高い病気であり、特に感染しやすいのは5歳未満の子供です。日本では一般に「小児麻痺」と呼ばれます。ポリオウイルスは、人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。神経系を侵すこともあり、これによって身体の麻痺を引き起こす可能性があります。治療法はありませんが、



幹事報告

伴幹事

◇地区より能登半島豪雨災害義援金のお願い

本日も募金箱を回します。ご協力を。

◇地区大会のちらしをレターBOXに配布。12月1日(日)の本会議に是非ご参加下さい。参加確認の文書をFAXしたのでご返信を。

◇来週10月29日は夜間例会。お間違えなく。



委員会報告

◇スマイルボックス委員会

黒澤委員

若井 勲 会員

10月20日、大人の休日ゴルフにて優勝しました。



卓話

「話し方で印象は変えられる」



フリーアナウンサー 藤田 真奈 様

皆さん、こんにちは。今日は、皆様の記憶や心に残ることが少しでもお伝えできればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

はじめに、自己紹介をさせていただきます。私は、大阪府吹田市というところで生まれ育ちました。なぜ、アナウンサーになろうと思ったかお話しします。私が小学校5年生の時に阪神淡路大震災がありました。子供部屋の二段ベッドで寝ている時、物凄い揺れで起きました。物が散乱する真っ暗な中、なんとかリビングにたどり着くと、家族が、「地震だ。どうしよう。大変だ。」と話し合っていました。余震がずっと続いていましたので、幼いながら、「今日はきっと世界の終りの日なんだ。」と思ったことを覚えています。ガス、水道、電気、全て止まっている状態で、はじめに復旧したのが電気でした。テレビをつけると、悲惨な状況が映し出されていましたが、テレビの中の人、「余震がありますので、備えてください。」と呼び掛けてくれました。何もなくて余震がくるのと、備えてと言われてくるのでは、安心感が全然違い、テレビの中の人に、物凄く救われた気持ちになりました。私もいつかこっち側の人になって、安心感を与えられる、災害の時に助けてあげられるような人になりたいと、その時に初めてアナウンサーという仕事を意識しました。

大学卒業後、アナウンサーの就職活動をしました。が、受からなかったため一般企業に就職しました。大学時代にアナウンサーになるための勉強ができていなかった、という心残りがあり、働きながらアナウンス学校に通いました。しばらくして、新しい仕事にも慣れてきたので悩みましたが、アナウンサーをやりたいという思いがあったので、長野県の局に就職しました。その後、栃木テレビに入社し、現在はフリーアナウンサーとして活動しております。担当している番組は、栃木テレビの夜9時からのニュース番組、CRT栃木放送で午後1時～7時までの『Accent ～アクセント～』という生放送のラジオ番組、そしてRADIO BERRYの土曜日の夕方6時からのJAZZの番組です。また、栃木テレビで毎年『高校野球ハイライト』という番組がありますが、栃木テレビの局アナの頃から担当させていただいております。

今日は、「話し方で印象は変えられる」という題名ですが、それよりも、「印象の良い話を引き出すためにはどうすれば良いか」という話をさせていただければと思います。私がアナウンサーになって一番多い仕事はインタビューです。アナウンサーになって初めて行った現場もインタビューでしたし、栃木県に来て初めての仕事も福田知事

のインタビューでした。私がまだ1年目の時、私のインタビューに答えてくれた人の映像を見ると、生き生きしていませんでした。他の先輩のインタビューに答えている人は、物凄く生き生きと画面に映し出されていました。どのように質問したら、こういう風に素敵な表情で答えてもらえるのだからと、自分なりに考え、いろいろと検証しました。こちらの聞く姿勢や、インタビューのちょっとした一言で、相手の目が変わるのです。例えば、身近な話なのですが、新オープンパン屋さんでお話を伺う時に、「お店のこだわりはなんですか。」とそれだけ聞くのと「私は実はパンがとても好きで、自分でも焼いたりしますが、なかなかうまくいかないんですよ。凄くいい香りがしていますが、お店のこだわりはなんですか。」と聞くのと、相手の方の第一声が変わるのです。「そういうふうに思ってくれていたのね。それはね…。この香りはね…。」と、生きた言葉が返ってくるのです。話し上手は聞き上手、と言われますが、日常のコミュニケーションと同じです。そう感じてからは、自分がしゃべる、というよりも聞く体制を整えて仕事をする、ということに心掛けるようにしております。最近は、Zoomやオンラインなど、画面に向かって話す機会も増えてきています。相手の姿は見えませんが、仲の良い友達等、相手を思い浮かべながら話すことで機械的にならないのではないかと考えています。

印象が良い話し方とそうではない話し方と何が違うか思った時、一番は、相手に伝わるかどうかだと思っています。アナウンサーの仕事をしていると、噛まないように、間違えないように、というプレッシャーがあるのですが、はじめに教えてもらった先輩に「噛むのは仕方がない。伝わればいいんだ。噛んだとしてもちゃんと伝わるように言い直せばいいんだ。」と言われました。アナウンサーという仕事は、スラスラ読むAIではなく、ちゃんと相手に伝えるという仕事だと思います。そして、相手の立場にたって耳を傾ければ、相手は生き生きとした表情で自分に伝えてくれると思っています。社会全体を見てもそうなのですが、皆さんの職場や周りにも、コミュニケーションに困っている方がいらっしゃるかもしれません。もし、そういう方が身近にいらっしゃったら、是非、理解のある聞き手になってあげていただきたいと思っています。単純に頷くだけでも、微笑んで話を聞いてあげるだけでもいいと思います。また、ちょっとした一言を加えてあげるだけでも違うと思いますので、是非、そのような形で、「聞く」ということを意識していただければと思います。